



協会活動状況

(特別の記事のないものは、すべて会場は事務局において。)

●五月二十一日(金)

「会誌」—湿原特集—の執筆予定者にそれぞれ原稿を依頼した。

主な予定者

- 一、湿原とは何か(東大、坂口 豊氏)
- 二、未定 (北大、辻井達一氏)
- 三、バード・サンクチュアリとしての湿原 (所長、安西英明氏)
- 四、オランダ干拓地(人工の湿地) (北大、梅田安治氏)
- 五、湿原植生の修復 (道教育大、橋ヒサ子氏)
- 六、湿原植物の根系 (神戸女学院大、矢野悟道氏)
- 七、湿原の気象と変動 (北大、高橋英紀氏)
- 八、ラムサール条約について (前読売新聞記者、紺谷友昭氏)
- 九、釧路湿原国定公園構想 (札幌医院、札幌一朗氏)
- 十、湿原の魚(さけの会、鍛冶英介氏)
- 十一、湿原の文学 (東北大、乳井甚三郎氏)
- 十二、公園としての湿原(箱根湿生花園)のあゆみ (箱根町、井上香世子氏)
- 十三、湿原植生の変遷 (釧路市郷土博物館、新庄久志氏)

●五月二十七日(木)

去る十五日の総会で選出された新役員の登記事務を司法書士に依頼した。

役員の名簿

- 八木健三(会長)、新妻 博、宗像英雄(副会長)、大山 明、狩野 廣、齋藤植男、成瀬廉二、長谷川雄七(常任理事)、赤嶋正克、春日井 昭、門村 浩
- 久万田敏夫、午来 昌、紺谷友昭、新庄久志、田尻聡子、滝口 巨、廣井 淳、細川憲了、山本 正(理事)、及川敬一、大塚 武、秦 巖夫(監事)。

●五月二十八日(金)

七月三十一日より開催する「自然観察指導員講習会」の実施要領(印刷物)三〇〇部が納品されたので、早速関係方面に送付した。

●六月九日(木)

北海道開発コンサルタント(株)より受託し、「一般国道三九号上川町武華地区動物環境調査その二」の昆虫部門についての調査を実施することになった。総費一〇〇万円で、トンネル利用による国道切り換え工事に伴う関係地域の昆虫調査である。

●六月十四日(月)

市街地周辺としては珍しく樹木に恵まれた峰歩きと溪流に親しむ「小林峠」中ノ沢」の自然歩道を舞台として開催。講師として林試の高畑 滋先生(植物)、当協会の会長(石、滝)、島田明英(鳥)の各氏が指導してくださった。好天に恵まれ、夏の日ざしの強い日などもあっただけに、木陰、溪流が、涼気を誘い、爽快な一日だった。参加者三一名。

●七月四日(日)

会報第四一号が納品された。

●七月六日(火)

「知床横断道路に係る自然環境保全案

常任理事会

出席者 新妻、宗像、齋藤、成瀬、狩野、長谷川。

主な議題

- 一、本年度の事業計画と収支予算
- 一、自然観察指導員講習会
- 一、団体連合主催のシンポジウムと核問題

●六月十七日(木)

長谷川理事と事務局長とが道生活環境部自然保護課を訪れ、「釧路湿原保全対策調査」の委託契約について協議した。これは釧路湿原における自然環境の総合的な保全対策に資するため、釧路湿原を特徴づける動植物の実態を調査し、あわせて土地利用、権利関係の現況と動向を把握することが目的とされ、動植物、水文地理関係についてとりまとめるもので、総費二五〇万円である。

●六月十七日(木)

会報第四一号が納品された。

●七月四日(日)

市街地周辺としては珍しく樹木に恵まれた峰歩きと溪流に親しむ「小林峠」中ノ沢」の自然歩道を舞台として開催。講師として林試の高畑 滋先生(植物)、当協会の会長(石、滝)、島田明英(鳥)の各氏が指導してくださった。好天に恵まれ、夏の日ざしの強い日などもあっただけに、木陰、溪流が、涼気を誘い、爽快な一日だった。参加者三一名。

●七月六日(火)

「知床横断道路に係る自然環境保全案

急対策調査」についての説明会が道庁ホ
レンガの会議室において行われた。これ
は知床横断道路の道路建設による沿線の
自然環境への影響について実態を調査
し、その原因と度合を明らかにしたうえ
で、当該地域の自然環境を保全するため
の現行の諸制度の中で実行可能な対策を
検討しようとする環境庁主催の調査であ
るが、当協会が受託して実施しようとな
るものである。総費四四三万円、動物、
植物、微気象、土壌の四部門について行
う。

環境庁自然保護局保護管理課、経理課、
阿寒国立公園管理事務所のかたがた、道
自然保護課の原田技師、当協会よりは会
長、長谷川理事、事務局局長、高畑 滋、
大森司紀之、島田明英の各氏が出席した。
なお、当協会に発注する予定であること
も話しがされた。

●七月二十二日(木)

自然観察指導員講習会の参加者も決定
し、開催日も近づいたので、会長と事務
局長とが道自然保護課長を訪れ、経過を
報告するとともに今後の援助、指導につ
いて要請した。

●七月二十三日(金)

常任理事会

出席者 八木、新妻、大山、狩野、斎藤、
成瀬、
一、受託調査について
二、自然観察指導員講習会について
三、十勝自然保護協会より会長にあて
た書簡について

●七月二十七日(火)

二十三日の常任理事会で決定された道
土木部道路課長あての公文書(別記)を
提出した。また、十勝自然保護協会には
道宛の写を添えて会長より返書を送った

●七月三十一日(土)八月二日(月)

自然観察指導員講習会開催

第三九回北海道自然観察指導員講習会
が予定どおり養老牛青年の家(根室支庁
管内中標津町)を会場とし、標津岳山麓
の森、川をフィールドとして開催した。
受講生は、道内五六、道外七(二〇)六
六才、女性は九名、一般二三、学生一〇、
教員一七、公務員一三(の六三名であつ
た。講師は、三島次郎(筑波大学生物系
講師)、金田 平(神奈川県立新羽高校
教諭)、工藤父母道(日本自然保護協会
研究員)、八木健三(北星学園大学教授、
北大名誉教授)、三浦二郎(養老牛小中
学校々長)、新庄久志(釧路市立郷土博
物館学芸員)の各氏で、早朝六時より二
二時まで、もり沢山のハードスケジュール
の中で有意義に終了した。

●八月二十三日(月)

公聴会

ヤマドリ、コウライキジ、テン及びオ
スジカの捕獲禁止に関する公聴会が道庁
ホレンガ会議室で行われた。当協会より
新妻副会長が出席し、保護、増殖のため
に捕獲を禁止することは妥当であると
し、賛意を表した。

●八月二十五日(水)

大石環境庁長官と会長との対談

来札中の元環境庁長官、参議院議員大
石武一先生と会長との対談が、北大百年

記念館において、辻井達一先生司会のも
とに、二時間にわたって行われた。尾瀬
の話、道東の湿原の話、本道の自然に対
する所感、当協会に望むことまで、話は
つきからつきへとつきることなくつづ
き、二時間が短く感じられた(詳細は会
誌第二二号、湿原特集号に掲載される予
定)。

●九月五日(日)

釧路湿原調査中の会長と高畑滋氏の二
人と十勝自然保護協会とで、「道道土幌
然別湖線の開設」についての話し合いを
釧路市内郵政会館にて行った。

●自然観察指導員

さる七月三十一日から八月二日、中
標津町にて行われた講習会で、次のかた
がたが「自然観察指導員」になられた。
丸田芳彦、松野誠也、島山俊雄、佐藤
高、富川 徹、下山信克、辰野由美子、
野浪美雪(札幌市)、橋本清司、皆川善明、
斎藤 聡、志村智子、平野一恵(江別市)、

自然観察指導員

講習会に参加して

丸田 芳彦

岩城欣一、谷口牧一郎(千才市)、水本
八弥(函館市)、浜田昌夫(上磯町)、村
本喜久雄(三笠市)、国分 学(砂川市)、
松永 寿(月形町)、上松逸平(浦臼町)、
盛 久良(旭川市)、佐々木太(比布町)、
鈴木邦輝(名寄市)、井上政史、米原ふ
さ子(紋別市)、安藤 貢、杉原邦信(佐
呂間町)、今野喜代裕、金上由紀(北見市)、
八巻正宜(美幌町)、氏家文彦(網走市)、
牛島一郎(清里町)、森 信也(斜里町)、
谷岡裕司(苫小牧市)、北村一幸(早来町)、
茶木 彰(厚真町)、鷺田善幸(門別町)、
宇井晴穂(平取町)、宮崎正博(陸別町)、
高山末吉、高島幸男、宇田川賢、鈴木
二郎、大和てる子、渡部千春、木村修一(釧
路市)、松下 昇(厚岸町)、小山利夫(羅
臼町)、唱田光明、瑞木 博、田村 豊
津町、清水貞芳、中松秀男、三好政己、
野竹 茂(中標津町)。以上五十六名(ほ
かに道外七名) 柏

第一日目(七月三十一日)

一三時三〇分、開講式が始まり、開催
地の標茶町助役、根室支庁長、北海道自
然保護協会会長の挨拶の後、日本自然保
護協会の金田先生から野外表技について
の要点説明があつて式を終り、直ちに野
外実習に入った。

参加者六三名が二グループにわかれ、
各自がスケッチブック、ルーペ、フルー
ツバックなどを携帯して外にで、「青年
の家」前の路上、空地で約一〇分間、周
囲の森の外観や樹木の観察をしながらス
ケッチをした。スケッチのあと、金田先
生から、「これは絵の巧拙を問うのでは



なく、森を構成する全体像、樹木や草の植生状況をどのように観察、把握するかを目的としたものである」と説明があった。

次に、私たちは「青年の家」裏側の森に入った。金田先生や諸先生の指導を受けながら、各自思い思いに樹林の中に入り、各種の木の形態を観察し、また、落葉が堆積腐植している土を一〇cmほど掘り起こし、葉腐植土の過程を観察し、さらに樹葉や土中にいる昆虫などをフルーツバックに収めて観察し、説明や指導を受けた。このあと、再び空地に集まり、森の外景を眺めたが、初めに漠然とスケッチをしたときは全く違った角度から観察し、思考するようになった私自身に驚いたのである。森を眺め、森に入って観察し、再び森の外から森を観察

する。その思考の変化は、私にとって貴重な体験となった。

一九時から二時まで「自然の保護を考えよう」というテーマで金田先生の講義が行われ、(一)自然保護の西洋と日本の概念の相違、(二)昭和二十年代における日本の自然保護運動の感覚、(三)自然保護に関するナイロビ会議の基本的確認事項、(四)今後一〇年間に国連が取り組むべき環境問題と優先順、(五)有限資源と無限資源の概念と対策。

以上についての豊富な知識と熱意のこもった講義は、「自然保護とは何か」を考える点で非常に参考になった。

第二日目(八月一日)

六時に参加者たちは一斎に玄関前に集まった。すぐ私達は三班にわかれ、諸先生の指導のもとに山道を歩き始めた。三浦先生が双眼鏡を手にし、鳥の種類や、探鳥にもつともよい時期について説明された。それでもベニヒワ、アオジ、ウグイス、アカゲラ、四十雀などが確認できた。鳥類の観察のあと、八木先生が岩石について説明された。先生は路上の碎石のなかから一個の石を取りあげ、ハンマーで割って石の断面を私達にみせ、わかりやすく解説された。

早朝の自然観察を終り「青年の家」に戻った私達は、朝食後九時から再び野外実技に入った。三班にわかれた私達は、各班ごとに、三つのフィールドに立つ一人ずつの先生がたから、それぞれ熱のこもった指導を受けた。

- 一、植物の観察(新庄先生)
養老の滝に向う樹林地帯で
- 二、地質と石の観察(八木先生)
滝付近で
- 三、川と虫類の観察(三浦先生)
滝つぼ近くで

植物、地質と石、川と虫類の三段階にわたった野外実技であったが最後に金田先生から自然観察の要点として

- ①自然保護を考えるための自然観察のあり方として、そこにそれが必要か。他に方法がないのか。
- ②自然観察の場合、指導者の前を歩かないこと、指導者の後からついていく場合には、自分勝手な行動や判断をしないこと。

③鳥の観察の場合、鳥の羽毛のファイ(落ちていた場所、鳥のどの部分の羽毛か、いつみつけたかなどを記録して)を作ったり、羽毛図鑑を作っておくと観察上非常に参考になる。

一八時から「自然観察」について三島先生の講義が行われた。

自然の法則を理解し、構成要素、構造、エネルギー(生体)を、個体のレベル、器官としてのレベルで研究する。全体は部分からの構成であり、主体がなければ環境の問題もない。これらの点をカエルやサクラ草、サンゴ礁、ダムにおける冷水、温水の関係などを例にして、外部条件、内部条件などについて講義されたが、時間を忘れて聴きいってしまった。

第三日目(八月二日)

自然観察指導員講習会の最終日を迎えた。参加者を六班に分け、「青年の家」から概ね三〇〇mの範囲内で、参加者それぞれがテーマをもち、五分の持ち時間で指導実習することになった。

早朝六時前から参加者は自分のテーマを把握、肉付けするために霧雨けむる野外にで、思索し、観察し、メモするのに真剣な様子であった。

八時、参加者は指示どおり六班にわかれ、各班に指導の先生がついて指導実習が始まった。皆がそれぞれの個性と説明技術、説得力をもって、未経験の私にとってはこのうえない勉強となった。

こうして、三日間にわたる講習会は正午をもって終了し、閉講式が行われたが、参加者は昼夜ぶつ続けのハードスケジュールを無事消化した喜びと充実感に満足し、三日間真剣に指導に当られた諸先生及び事務局員のかたがたに感謝と名残り惜しさを心から感じながら、霧雨やまめ「青年の家」を後にしたのである。

以上を総括して感想をのべてみたいと思うが、参加し、実習し、ともに生活し、本当によい体験を得たが、これは指導に当られた諸先生が、三日間を通して参加者と行動をともにし、その博い学識と行動力、説得力に対して、参加者全員が感謝し尊敬し勉強しえたものと思う。私も、この貴重な経験を自分の人生に十分に活用するつもりでいる。

最後に、——自然は、自然のふところに返そう——。

(会員・札幌市)



陳情書、要望書

意見書、回答文書

然別湖線道路に関する件

昭和五十七年五月一日

北海道土木部道路課長 奥村惇一殿

(社) 北海道自然保護協会

会長 八木健三

本件に関するこのたびの打合せ会議において、貴職ならびに山形土木現業所長には、駒止トンネル案を最有力候補と考

えている旨の発言がありました。この件につきましては、最終調査完了の段階で意見の交換が行われるべきものと考えておりましたので、とりあえず会長ならびに石川前会長より駒止トンネル案の種々の問題点を指摘し、道路を建設するならば、南廻り案を最優先すべきである旨申し上げた次第であります。

本件は、大雪国立公園内の最も重要な一地区に関するものであり、貴職側と当協会との間において慎重に検討することが肝要と存じます。なるべく速やかにその機会を得ますよう希望いたします。

道々士概然別湖線の開設

ことごと

H N C S 第二七〇号

昭和五十七年七月二十六日

北海道土木部

道路課長 奥村惇一殿

(社) 北海道自然保護協会

会長 八木健三

このことにつきましての当協会の方針は、当初態度を表明いたしましたようにあくまでも反対するものでありますが、一部本計画案に対する当協会の意見に誤解があるやに聴き及んでおります。

つきましては、この問題に関して再度反対の意志を明らかにするとともに、当協会から先に意見を申し上げたいいわゆる「南廻り線」につきましても貴職において考慮され、計画とご提案が示された場合には改めて検討を行い、当協会の態度を明らかに致す所存でありますことを念の為申し添えます。

「緑の地球防衛基金」の発足

八木健三

さる七月二十九日憲法記念館で、「緑の地球防衛基金」の発起人会が開かれ、筆者もその一人として参加した。

地球進化の主役を演じ、現在の大気をつくり、生物を育んできた森林が、木材の乱伐、焼畑農耕、薪伐採などで、発展途上国を中心に、年々日本全土の半分

に当る二千万ヘクタールが消滅し、九州・四国を合せた面積が砂漠化しているという。

森林をこの恐るべき消滅から救い、人類と生物の生活を守るために、世界最大の木材輸入国として、森林荒廃にかゝわってきた日本人こそ、その責任を感じ、森林の保護育成に立ち上らねばならぬ。

この見地から、元環境庁長官大石武一氏がよびかけ、「ひろく一般から募金して基金をつくり、これをもって主に熱帯林の保護をはじめ、事業、研究を行い、発展途上国へ協力してゆこう」というのがこの基金の趣旨である。

これには全員賛成であるが、その具体的な問題については熱心な議論が交された。またこの運動を軍縮とも結びつけ、先般の反核軍縮署名八千万の力を結集し、国民広くから浄財をあつめ、さらに各種企業にも大口の寄附を求めようということになった。現在約三〇名の発起人を百名位に増した上、九月に改めて設立総会を開き、基金をスタートさせることとなった。この基金は本協会の活動目的とも一致するところが大きい。会員諸氏の積極的な協力を切にお願いしたい。

お知らせコーナー

◆本の転販(日本自然保護協会発行) 野外における危険な生物 二〇〇〇円 (送料二五〇円)

●自然観察指導の四八手、自然かんさつ学入門、森林への招待、自然への招待、

雑木林の自然かんさつ、草はらの自然かんさつ、いその自然かんさつ、川の自然かんさつ、自然観察ガイドブック(支笏湖、小樽・積丹、蔵王、乳頭・秋田駒、丹沢、宮島、加太・友ヶ島、浅間山、天神崎、若狭、尾瀬、南アルプス、妙高山、三瓶、ひるぜん、足摺) 各三〇〇円(送料各一七〇円)

◆物質の転販(北海道自然保護団体連合より依頼されているもの)

●故坂本直行画伯の「花の絵ハガキ」 ナナカマド、ツリガネニンジン、エソトリカブト、キタコブシ、サクラソウ、フクジュソウ、六枚一組三〇〇円(送料七〇円)

●ループタイ 故坂本直行画伯のデザイン、一本一万円(書留、送料五四〇円)

●純性粉せっけん 一〇〇%、天然油脂を原料としています。健康と豊かな自然環境を守るために、合成洗剤を追放しましょう。一袋(二kg入り)七〇〇円。

昭和五十七年九月三十日発行

〇六〇 札幌市中央区北一条西七丁目 広井ビル五階

発行所 社団法人 北海道自然保護協会

電話(〇一一六)一六五八六(代)

(〇一一五)一五四四五(直)

郵便振替口座 小樽 四〇五五

北海道銀行本店 〇一七二五九

北海道銀行本店 〇一四四四四

発行人 八木健三
印刷 札幌印刷株式会社